

久留米の自然

久留米の自然122号 2014年9月1日

越冬したルリタテハ

撮影年月日 2014年3月13日

撮影場所

久留米市山本町根城病院跡地付近

撮影者

中野昭剛



越冬したルリタテハ

国分 謙一

春の日差しを浴びて、気持ちよさそうにコンクリートの上でひなたぼっこをしている写真です。今年の3月13日に久留米市山本町の兜山の麓で取り壊し中の家屋にきた蝶です。成虫で越冬するので、冬を過ごしたものですが羽の破損も少なく綺麗な個体です。雄雌の区別は外見や写真では難しく交尾器を調べるのが確実です。

黒色の羽の表面に美しい青白色の帯があり、ルリタテハ“瑠璃色のタテハ”と名付けられました。裏面は褐色の樹肌色で見栄えがしませんが、茶色～黒色と変化に富んでいて、天敵から身を守るために進化したと思われます。日本の蝶で類似した種類は生息していませんから間違えることはありません。インドから東南アジアに広く生息していますが、地理的変異があり南に行くほど青白帯が広がります。日本本土に棲息するものは別

亜種として区分され、シーボルトによって学名(世界共通名)には裏面の小さな白い模様の形がカタカナの”ノ”“のように見えるので no-japonicum と名付けられました。

平地から山地まで広く生息しています。新しい成虫は6月頃から出現し、各種の樹液(クヌギや柳など)や熟した果物などに集まりますので見つけるのは簡単で、その時は羽を開閉しますので裏表の模様の違いが良く分かります。

幼虫の主な食草は、和菓子店などで販売されている柏餅の葉(筑後地方の方言ではガメンハ)の“菝葜”(サルトリイバラ、猿捕茨は正しくない)ですが、園芸店で売られているホトトギスを花壇に植栽していると、何時の間にか黒色の幼虫が発生していることがありますので育ててみたら如何でしょうか。

久留米市の蝶 52

ミヤマカラスアゲハ

国分 謙一

夏の暑い盛り登山中に、日差しが遮られる森林の中を通る道に入るとホッと休憩をしたくなります。尾根の頂や山頂でこのような森林の中に青空が広がる空間があると、殆どの方はしばらく休憩や食事をされているようですが、その空間の上空を大きくて黒い蝶がほとんど羽ばたきもせず長時間、風に乗って悠然と舞っている姿を見る事ができ、他の種類や鳥などが近くに飛来すると追いかけて、また何事もなかったように舞います。

ミヤマ(深山)に産するカラスの翅色のアゲハと名付けられていますが低山地にも生息しています。

日本では屋久島から北海道まで主に山地に生息していますが、飛翔力が強い蝶で東京都内でもキハダやカラスザンショウを植栽していると発生することがあるそうです。

発生時期により4月からは春型、7月からは夏型と言われ色彩に違いがあり、また夏型は大型になり一番大きな蝶です。

雄と雌の区別は簡単で、雄の表面は一面に美しい濃い青緑が多く、前翅に黒い毛で性斑があり、雌は茶青紫で性斑がありません。

美しい蝶

4月から出現する春型は、愛媛県での展覧会の時に美しい蝶のコンテストをされたら、日本で一番美しい蝶となったそうですが、信州や北海道などの寒冷地に生息している個体で、九州産と比較したら非常に綺麗で別の種類と誤ってしまうほどですが九州のものは美しくありません。

稀か、区別が困難か?

九州では昭和7年に福岡県にて発見されたのが最初です。久留米市では採集年月がある記録は遅

く1960年(昭和35年)に発表されましたが、それ以前の1949年(昭和24年)の報告では、稀に採集され2頭は確実に1頭は疑問の3頭の標本を見たと言われています。

私が昆虫を始めた昭和30年代の末は、カラスアゲハ(会誌89号参照)に較べると少なかったのですが時々見ることが出来ました。稀なので発見できなかったのか、区別が困難で見過ごされていたのか分かりませんが、私は当時は九州のものは疑問と言わしめるほど区別が困難だからだったと思っています。

※今も変わりませんが図鑑は東京を基準として発行されていて、暖地産と大きな違いがある関東地方産での形態の記述や絵画ではカラスアゲハと区別できなかったのでは。

観察の勧め

近年は自然教室でも、観察するだけ(見るだけ)と最初に言われて標本作成は奨励されていませんが、近距離でも見る方にある程度の知識がないとカラスアゲハと区別が困難です。昆虫は種類が多く標本を調べないと判別できないのが多数あり、採集して調べる経験を積み重ね、私は蝶についてはある程度遠くから見ただけで区別ができるようになりましたが、生態の観察が不十分です。殆どの昆虫の生態は良く分ってなく、貴方の観察で図鑑を変えるかもしれません。

久留米市での観察

久留米市では4月中旬から9月まで見られ、4月～5月上旬は吉見岳山頂、高良大社境内、森林公園、発心公園のツツジの花が多い所で待っていると吸蜜に訪れていて必ず発見できます。7月から出現する夏型はネムノキやクサギの花に訪れているものや、森林公園の上部、毘沙門岳(三角点及び高良山山頂の碑がある)のように青空が見える場所では雄だけですが見ることができます。

※毘沙門岳は梢が茂り空間が狭くなりました。

第33回くるめ緑の祭典グリーンキャンペーン において中野昭剛氏が緑の貢献者表彰

橋田 沙弓



表彰された中野昭剛氏

平成26年5月5日(こどもの日)午前10時、鳥類センターにおいて、第33回くるめ緑の祭典グリーンキャンペーンが開催されました。その8団体と個人表彰5名の部で当会事務局の中野昭剛氏が「久留米の環境保全活動に貢献し、市民会議行事にも協力」ということで、久留米市長より賞状が授与されました。中野氏は久留米の自然を守る会に入会されて11年目となります。入会と同時に事務局に所属し会の諸行事、くるめ緑の祭典である緑のハイキングや久留米市農政部生産流通課の行事にも積極的に参加され、高校時代より登山を趣味とし自然を愛され、久留米市森林ボランティアに平成22年から登録し、高良山遊歩道、耳納スカイライン、林道等の不法投棄、自然災害、無許可伐採等の巡回をし、生産流通課に通報されておられます。

今後ますます自然保護と当会の発展のために頑張ってくださいと期待されています。

高良川流域の地衣類(その11)

角 正博

3. トゲシバリ(棘縛り) *Cladia aggregata*

ハナゴケ科の地衣類です。地衣体は淡緑色で、高さは2~5cm程度になります。子柄は蜜に繰り返し二叉分枝し、尖枝状です。ルーペで拡大してみると、まるでカラタチの枝が、何本も絡まったように見えます。トゲシバリという和名は、その形態をうまく言い当てていて、言い得て妙です。子柄のところどころに、長円形の穿孔があります。ハナゴケ科のほとんどは鱗葉を持つハナゴケ属です。しかし、トゲシバリは他のハナゴケ属とは異なり鱗葉を欠くため、ハナゴケ属から独立して、トゲシバリ属が設けられています。

高良川流域では、県道脇の山側の崖に数個体が生育しているだけです。ここは、久留米市内で唯一のトゲシバリの生育地でもあります。八女地方では、かつて山地の崖などの斜面にまれに見られましたが、現在は確認できていません。筑後川以北の北筑後では、小郡市津古で、小さな個体が生育しているのを確認しているのみです。



写真1: トゲシバリ

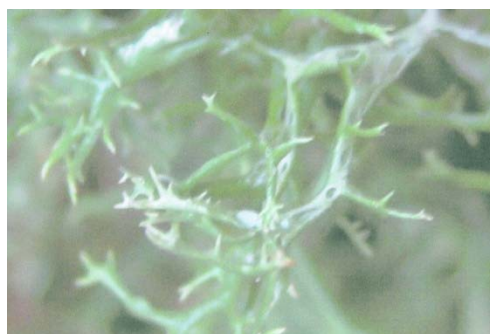


写真2: トゲシバリ(拡大図)

高良川流域の地衣類 (その12)

角 正博

4. ヒメジョウゴゴケ (姫漏斗苔) *Cladonia humilis*

ヒメジョウゴゴケはハナゴケ科ハナゴケ属の地衣類です。ハナゴケ属は大属なので、さらによくつかのグループに分けることがあります。ジョウゴゴケの仲間には、「①子柄が灰白色から淡緑色で、穿孔を欠き、比較的大きな盃(漏斗状)となること。②褐色の子器を持つこと。」を特徴とする比較的まとまったグループです。

このジョウゴゴケの仲間の中で最も身近に生育しているのが、ヒメジョウゴゴケです。ヒメジョウゴゴケの基本葉体の鱗葉は、小型で淡緑色です。大気汚染にも強く、人家の周辺にもよく生育しています。名前のおりの小さな漏斗状の子柄をよくつけていますので、すぐにジョウゴゴケの仲間であることがわかります。子柄は高さ1cm程度、基部は直径1mm、先端の漏斗の口径は直径5mm程度で、灰白色から淡緑色です。子柄には粉芽をつけるため、よく見ると粉をまぶしたように見えます。ときどき漏斗の縁に褐色の子器をつけることがあります。

ヒメジョウゴゴケの近縁種は、どれもよく似ています。但し、ヒメジョウゴゴケ以外は比較的まれな種です。フマルプロトセトラール酸の代わりにプソローム酸を含む場合はヒメジョウゴゴケモドキ、クリプトクロロフェア酸を含む場合はクリプトジョウゴゴケ、グレイアニン酸を含む場合はグレイジョウゴゴケなどと分けられています。含有成分の違いによるものですが、形態に顕著な違いは現れません。それでも研究者の話では、基本葉体の鱗葉がやや小さかったり、子柄の形も若干異なるそうです。



ヒメジョウゴゴケ

生き物に魅せられて 60

ベッコウバチの巻

松永紀代子

2013年の9月は豪雨に竜巻ではじまった。久しぶりにカラリと晴れて気持ちの良い朝、筑紫野市内の神社の境内はツクツクボウシの蟬時雨で賑やかだった。と、足元の地面で、2cm弱の黒っぽいハチが動いた。

ハチの側には、作りかけの巣穴。穴に潜っては、腹から後ずさりに出てくるとオオアゴで啜えた土の塊を外でポイッと捨てる。そしてまた穴へ。獲物は・・・50cmほど離れた地面に横たわった麻醉済みのジョロウグモの♀だ。何度か穴に潜っていたハチは、パッと飛んでクモのそばに行き、クモを引きずりながら戻ってきた。穴の横に一旦クモを置くと、クモの腹先を穴にいれた。次に自分も穴に潜り、中から引っ張っている様子。最後にクモの脚が穴に消えた。

産卵が終わったのか、ハチは穴の中でせわしなく頭を動かしている。その動きが少しずつ上へ上へ上がってきて、姿がはっきり見えるようになった。

ハチは土を少しかけては、腹部をまげて、その腹先でトトトトトとすごい速さで叩いていた。トトトトト。よくもあんなに腹が動くものである。アリが穴を覗き込むと、飛び出してきて威嚇、追い払った。地面から2mmほどまで埋めて叩いたところで、今度は穴から出て、穴のそばを浅く掘り広げた。その間、穴の上をトトトトト。どうやら、穴とその周りを同じにしているらしい。穴の場所を分からなくして、外敵から子どもを守るためということなのだろう。小さな植物片を穴上に一旦置いたものの、「やっぱり、や〜めた!」、とばかりにそれを払いのけた。トトトトト。大きな枯葉を1枚啜えて、穴の上にポイ。満遍なく周囲をならして、あちこち気を配り、パイと飛び去った。

私の耳に、ツクツクボウシの声が戻ってきた。

自宅で観察しました。

高山 美子

① キマダラカメムシの交尾

2014年7月10日久留米市北野町八重亀にて撮影 高山美子

日本のキマダラカメムシは台湾や東南アジアのものよりむしろ中国産に近い。自宅庭の桜の幹にカメムシ3匹が疑似色で集まっていた。良く見ると交尾していたので写真撮影した。(同定 行徳)



キマダラカメムシの交尾

② コガネグモ ヤモリを捕食中

2014年6月29日久留米市北野町八重亀にて撮影 高山美子

自宅庭の榊の木横で、コガネグモがいた。ヤモリを糸でぐるぐるまきにして、体液を吸っていたので撮影した。

※腹部に黄色と黒の太いしまもようがある大きなクモ。黒色部には、小さな青い斑点をもつ。体長メス20~25mm、オス5~6mm (同定 行徳) 分布、本州・四国・九州・沖縄



コガネグモ ヤモリを捕食中

ひととき 動物笑い話 その66

深海魚

米田 豊

ダイオウイカ、メガマウス、リュウグウノツカイなどの深海魚が例年に無く、相次いで捕獲されているが、その科学的根拠が十分説明されていないので、天地異変の前兆だと危惧する人もいる。ダイオウイカはイカだから食べられると思い、試食した人がいたが、まずくてとても食えない代物との事。食用になるなら、BBQでの丸焼きはギネスブックに登録されたかも知れないのに、残念だ。なにしろ、胴長が約2m、触腕を伸ばすと6.5m余の巨体だ。メガマウスはサメの仲間でジンベイザメのように動物プランクトンを大量に吸い込むため口が巨大なので、名付けられた。ビッグマウスと言われるACミランのK. Hをしのご大物だ。リュウグウノツカイは乙姫様からどんな伝言を運んで来ているのだろうか。

*深海魚は水深200m以上の光が届かない水域に適応した魚類(イカ、タコも含む)である。ダイオウイカは約10種が知られ、最大種は触腕を入れると15m以上。

例会報告**第413回例会****樹木の名札付けと豚汁会****河内 俊英**

2014年5月25日(日曜日)今年も高良山の遊歩道の樹木に名札付けを実施した。今年は、昨年終わらなかった、北面コースの森林公園に近い部分の名札付けだった。今回で何回になるだろう?20回くらいかもしれない。最近、南面遊歩道と北面遊歩道および吉見岳コースを繰り返している。このところ、コースを単年度で回りきれないこともあって、南面北面コースを中心に繰り返している。このコースは、散歩する市民も多く感謝の声も聴く。ただ名札付けへの参加者は、個別に声掛けして集めないと、中々集まらないのが残念である。

ただこの3年間は、橋田先生の豚汁につられてか?親子連れが何組か参加され、親子共に楽しんで、名札付けしている。南面コース北面コースには、植林地もあるが、本来の照葉樹林帯も残されており樹木層も多様で、遊歩道として貴重である。南面遊歩道は特に、秋から春にかけての低温期には日当たりが良く気持ちが良い。北面は、ヤマモモの巨木が多く、イノシシのヌタ場もあり、かつてはベニツチカメムシの集団やフクロウの巣立ちも見られた場所である。樹幹におおわれ、涼しくて真夏の森林浴に最適なコースである。

南面・北面合わせるとほぼ高良山の植生の代表的植物は、見られるようであり、橋田・宝理によると約50種の樹木が記録されている。今年の参加者は、スタッフを含むと26名と名札付けに適した人数と言えよう。晴天に恵まれ、ボランティアの名札付けも順調に実施され、橋田会長の手作り豚汁に感謝しながらの昼食でした。

参加者の感想文**池田善行 久留米市高良内町**

自然の中を歩きながら樹木の名付、高良山には多

くの自然があります。又機会があったら参加します。

金城智子 久留米市上津町

2回目の参加でした。今回は前回よりも多く樹木の名前を覚えることができました。タコの足のよ

広重 勝 久留米市荒木町

10年ぶり参加させていただきました。木の違いがなかなかわかりませんが、すばらしいイベントを今後も続けてください。豚汁がおいしかったです。ありがとうございました。

矢野郁子 宗像市

いろいろお手配をしていただきありがとうございます。大変勉強になりました。はじめての森はとも多くの木があり、見分け方など、わかりやすく説明をしていただき大変よくわかりました。もし良かったらのこり半周の時も出席させていた

江崎治之 久留米市本山

橋田先生から分りやすい御説明を受け樹の見分け方を学ぶことができました。葉が上の方にある樹も分るようになりたいと思いました。

古賀良人 久留米市藤光

高良山へ登り始めて53年になります。かなりな変化を見てきました。参拝道の石段の両側のユキノシタはほとんど無くなりました。でもまた貴重な動植物がたくさんあります。私の宝です。

金城博之 久留米市上津町

山に入る時間も2時間と適度で、5才児の子供といっしょでしたが、楽しめました。豚汁もおいしくて子供も喜んでいました。

金城道博 久留米市上津町

木に名前をつけていってずっとやってきているのでとても大切にしないといけないと思いました。ぶたじるやごはんもとてもおいしかったです。

金城満智花 久留米市上津町

自然とふれあってとてもたのしかったです。たくさんの木があって名前もおぼえてよかったです。

安達理恵子 福岡市

木の名前や山野草の名前がわかると自然を何倍も楽しめますね。今日は、とっても楽しかったです。

寺松琴江 久留米市山本町耳納

樹々の種類はあまりにも多くて、名前を知りたくても難しいです。だけど今日のように詳しく名前や由来を教えて頂くととても解り易くて少しは判別できるようになりました。有難うございました。

大坪かのかん 久留米市合川町

いろいろなものがみれてたのしかったです。

森みひろ 久留米市合川町

木の名前がいっぱい分ったからうれしかったです。ひさしぶりにあせをながせたのでうれしかったです。

行徳直子 うきは市

初めて参加させていただきました。木々の名前を知って、山登りする楽しみも増えると思います。なかなか1度の参加だけでは名前を知るまでにはいきませんのでまた機会があれば参加させて下さい。よろしくお祈いします。豚汁はとてもおいしかったです。ありがとうございました。

江崎優佳 久留米信愛女学院高等学校

ヤマモモとタブノキの幹がとても太くて穴があいているところにイタチ科のなんらかの動物がいますらうだと思いました。個人的にモッコクとサンゴ

ジュが見てみたかったです。

中嶋萌衣 久留米信愛女学院中学校

同じ種類の植物でも生えている場所によって大きさが全然違うことに驚きました。種類の異なる2つの植物が交差して生えていてその上とても大きく空に向かって伸びていました。この様子に力強い生命力を感じました。取った植物を顕微鏡でみると毛が表面に生えている葉や、針葉樹は細かいところまで見るのができ植物にさらに興味を持ちました。

大坪美帆 久留米市合川町

初めて参加しました。普段、木の名前や開花の時期を意識していなかったの、「耳にしたことのある名前」と「木」がつながり、とても興味深かったです。また、顕微鏡でスギやヒノキの葉の部分、木の幹の皮、ヤブムラサキの葉を見て、意外な見え方だったのも、おもしろかったです。ありがとうございました。

アラキ由紀子 久留米市合川町

樹木に名札をつけていく作業、新緑の高良山でさわやかで気持ちのいい時間でした。見たことあるけど名前を知らない木々、名前は知ってるけど初めて見る木々、勉強しながら新鮮な空気とふれ、娘や孫とも素敵な時間を過ごさせて頂きました。美味しい豚汁と御飯、ご馳走様でした。



樹木の説明を聞く参加者

廃プラスチック焼却による有害性とその対策

橋田 沙弓

現在操業中の焼却施設「上津クリーンセンター」は上津町高良台にあり、久留米市民から出されるごみは、何不足なく毎日集められ焼却されています。この清掃工場は平成24年に修理がなされたことから、15年間は完全にここで、焼却できます。

上津クリーンセンターに加えて、宮の陣八丁島に新焼却場を建設することは、多くの問題を抱えています。焼却施設の有害性と対策について考えてみます。

焼却場から発生する焼却灰や排ガスは匂いもしないし、吸い込んでも花粉のように刺激的なものはありません。しかし、長期にわたって、私たちや次の世代に様々な影響を与えます。

- ・廃プラスチック焼却による有害物質の発生、
- ・焼却炉からの飛灰中には低沸点重金属の発生、
- ・危険なダイオキシン類の発生、
- ・環境ホルモンの発生

による有害性が生ずることです。

1 廃プラスチックの有害物質発生

(1)『～検証！廃プラスチック焼却～ぜん息調査シンポジウム』が2010年1月5日に東京都江東区で開催されました。このシンポジウムで、環境ジャーナリストの青木泰氏から、以下のような報告がなされました。

- ① 2001年当時、横浜市はプラスチックなど混合焼却していたが、そうしていなかった東京都と比べ、ぜん息被患率が高い値を示していたこと。
- ② 同じ横浜市で2001年、横浜市栄工場の稼働停止後、風下にある2つの小学校のぜん息患者数が1校は半減、1校は3分の1に激減したこと。

- ③ 渋谷区立小学校全20校のうち、10%以上の生徒がぜん息を発症している学校が11校あり、そのうち2校は何と20%以上の発症であり、渋谷区の小学生のぜん息罹患率の平均は、東京都の平均の2倍ということ。

調査時の東京都では渋谷区を除き、プラスチックを混焼してなかったということですから渋谷区でぜん息が多い理由は、廃プラスチック混焼していたことしか考えられません。

(2) 江東区にはダイオキシン特措法による特定施設（ごみ焼却施設）が10施設と23区で最も多くあり、東京都でプラスチックの混焼を始めたことから、今後、プラスチック焼却を原因とする、ぜん息など子どもの健康被害のリスクが高まることも、青木さんは指摘しました。

(3)「子ども環境保健に関する先進8か国環境大臣宣言（マイアミ宣言、1997年）」では、子どもは化学物質など環境汚染に傷つけられやすく基準値以下で健康問題を生じる可能性があることから、予防原則で子どもの健康を守ると宣言しています。この宣言に則れば、プラスチックを清掃工場で燃やす実証確認試験の結果がこれまでの操業の範囲内や現在の日本の基準値内であっても、子どもにとって安全と言えるのかどうかの、検証が必要ではないでしょうか。

また、焼却炉周辺にはぜん息、アトピーや、ガンにかかる人が多いといわれています。全国、でぜん息の子どもの割合が、2005年度には幼稚園、小中高校で過去最高になりました。

次の会を紹介します。

「プラスチック分別をしませんか」

プラスチック分別を始めると・家庭のゴミが半分減る。プラスチック分別 → 重油に変わる → 農機具の燃料へ「環境にやさしい・久留米のごみが減る」。主催：ぶどうの会（代表 宮原サラ）

連絡先：34-5600（月曜～金曜10時～16時）

《行事案内》**◇ 第415回例会：****筑後川観月会**

天体観察と星座や月にまつわる昔話など、お抹茶もあります。天体の神秘を発見し、観察しましょう。事前に申し込みをお願いします。

〔日 時〕：9月6日（土）雨天中止

〔集合解散場所〕：筑後川防災施設くるめウス

〔集合解散時間〕：19：00 21：00

〔参加費〕：300円 定員50名

〔共催〕筑後川まるごと博物館運営委員会

◇ 第416回例会：**ネイチャーゲームと自然観察会**

全国いっせいのネイチャーゲームと昆虫と植物の自然観察会を行います。事前に申し込みをお願いします。

〔日 時〕：10月19日（日）雨天中止

〔集合解散場所〕：高良内幼稚園駐車場

〔集合解散時間〕：10：00 13：30

〔参加費〕：無料 定員30名

〔持参するもの〕：水筒、帽子、弁当、運動靴、筆記用具

〔共催〕くるめネイチャーゲームの会

久留米市農政部生産流通課

◇ 第417回例会：**久留米の歴史と文化と自然探訪**

草野歴史資料館を中心に周辺の歴史と文化と自然を探訪しましょう。案内は樋口一成氏（草野歴史資料館長）です。事前に申し込みをお願いします。

〔日 時〕12月13日（日）

〔集合解散場所〕草野歴史資料館

〔集合解散時間〕：13：00 15：00

〔参加費〕：無料 定員30名 雨天決行

《事務局だより》

自然を守ることとはとても出来ない。何故なら破壊者の人間が存在しているからです。

国破れて山河あり。敗戦後は確かにそうでした。国債を発行した頃から政治屋と役所の工事で国土が破壊されたのです。海岸河川を見て下さい。白砂青松の地は絶滅危惧種と同じとなる。福岡市に水をやる為筑後大堰では堤防から川底までコンクリートで固められ、水が地下にもれないようにしていると大矢野先生から伺い驚きました。

海山川をコンクリートでおおえば、美しい景観は台なしです。又雨が降れば地下水とならず道路が川となり、水害の被害は年々大きくなってます。江戸時代の石畳の道は石と石の間から水が地下に入り地下に水をためていた。先人の知恵はスバラシかった。昔、人は山の800mより上は入ってはいけないうねがあり動物とすみわけていました。私達はまだ残された美しい海山谷川の風景を心ゆくまで見て楽しい人生を送りたいものです。

（梅野 忠）

1. 会員異動

該当なし

2. 会費納入について

会費は、会の活動を支える源です。まだ、会費を納入していない人は振替用紙（口座番号01750-1-40114）に年会費2000円をご確認のうえ納入をお願いします。

3. 原稿募集

次号123号は平成27年1月1日発行予定です。原稿のめ切は12月1日です。皆さんの原稿をお待ちします。

4. 幹事会兼事務局会議のご案内

幹事会（定例）は原則として隔月第1水曜日の19：30～21：30まで、えーるピア2Fで行います。皆さんも気軽にご参加下さい。（9月3日、11月5日、27年1月7日）

久留米の自然

平成26年9月1日第122号
発行 久留米の自然を守る会
E-mail hashida@kurumenoshizen.net
発行者 橋田沙弓
事務局 〒839-0827
久留米市山本町豊田2320-6
TEL 51-7064 FAX 51-7065（古賀）
印刷 千年屋印刷
TEL 43-2400 FAX 43-2408